



「どこへ行くアメリカ大統領選」

日本外交協会 顧問 藤崎一郎(前駐米大使)

(平成28年5月26日講演 於日本記者クラブ)



G7サミットで毎年似た議題が出るわけ

G7(主要7カ国首脳会議)サミットが今日から伊勢志摩で始まりました。G7はG8であったりもしたのですが、テロリズム、北朝鮮、今ですとウクライナ、中東、サイバー、法の下での支配、経済開発、デフレーション、疾病、と同じような議論を毎年毎年やっている。2013年のコミュニケと2007年のコミュニケの違いが分かりにくいほど、似たようなことを毎年やっています。これはなぜだかお分かりでしょうか。

実は私も外務省にしながらサミットを担当するまでは意味がよく分からなかったのです。サミットを担当したのは外務審議官の時、これは北米局長のあとですが、小泉純一郎首相のサミット担当補佐官、シェルパをして「ああ、こういうことなのか」と分かったのです。

何かといいますと、シェルパというのは、総理に1人だけ付いています。各国のシェルパだけが集まって、7人か8人で会議をする。4回くらい会議をして、コミュニケのテーマを詰めます。実際の会議の時には、総理の後ろに1人だけ座り、他の人は一切座りません。これがG20やAPEC(アジア太平洋協力機構)との大きな違いで、APECやG20では、たくさん的大臣やら補佐官がずらっと首脳の後ろについています。G7、G8だけが全く違う。

毎年サミットでなぜ同じ項目をやるかという、これはメディカル・チェック、人間ドック、車のメンテナンスなのです。話が飛びますが、20世紀というのは社会主義・計画経済に民主主

義・市場経済が冷戦を経て勝った世紀です。なぜ勝ったか、三つ理由があると思います。

一つは、社会主義に比べて民主主義・市場経済は人間性の本質に合っていた。人間誰でも言いたいことは言いたいし、一生懸命働いた人が儲かるのは当たり前だというのが人間性でしょう。働いても働かなくとも関係ない、言いたいことは言っちゃいけないというのは人間性に合わない。それが一つの理由です。

もう一つは、社会主義・計画経済は必ず官僚主義になり、議会やマスコミのチェックがなければ必ず腐敗します。私も官僚でしたが、これは外にどう説明できるか、国会で問題になった時に説明できるかということが、常に頭の中にもありました。説明できないことはアカウンタビリティに問題があるということです。

三つ目がメンテ、人間ドックです。疾病が起これば、みんなで疾病対策をやる。途上国が経済破綻しそうになっていたら債務救済をやる、というふういろいろな形でみんなで民主主義と市場経済の二つのメンテをしてきたから、うまくいってきました。

市場経済、民主主義にほころびが出てきた

ところが、21世紀に入って、少しおかしくなってきました。大きなことが六つありました。そのうち三つは2011年に起きています。

一つはアラブの民主化が進み、「アラブの春」ともはやされましたがいくつかの国がガタガタになった。そして移民、難民とテロが横行